

1月1日 降誕後主日

福音書 マタイ 2:13-23

第一の日課 イザヤ 63:7-9

第二の日課 ガラテヤ 4:4-7

起きて、子どもとその母親を連れ、イスラエルの地に行きなさい。マタイ 2:20

ねらい

私たちは新年を祝いますが、新年がめでたいのではなく、イエス様と一緒に新年を迎えることができるので、めでたいのです、ということをお伝えしたいと思います。

説教作成のヒント

今は昔ほど正月をゆっくり過ごしません、子供たちにお正月は何がうれしいのか、どんなことをして過ごすのかを聞いてみてもよいと思います。でも世界には楽しいことばかりではなく、暗いこともたくさんあることも一緒に考えたいと思います。そのような世界の中でも消えることのない光、確かな希望とは何かを、説教者の確信をもって伝えたいと思います。

豆知識

・当時のベツレヘムの人口から推定すると、殺された子供の数は20~30人ほどではなかったかと言われています。この事件の資料が聖書以外にないのは、ヘロデ王が行ったもっと大きな虐殺に比べれば小さな事件であったから、とも考えられます。

・正教会、カトリック教会では12月28日、または29日を無辜嬰兒殉教日として記念しています。キリストのために殉教した、という見方もありますし、ヘロデのもとでの平和と安逸を求めた結果（ベツレヘムの人々はキリストのもとに行かなかった）、そのヘロデによって不幸を被った、という見方もできます。それは後にキリストではなく、ローマの力に頼ったエルサレムがローマによって滅亡することを暗示している、とも考えられるからです。

説教

今日は一月一日。嬉しくて楽しいお正月です。今年もよい年でありますように。でも今日の聖書にはとてもかなしいことが書いてあります。イエス様がベツレヘムの町でお生まれになったとき、ユダヤにはヘロデという王様がいました。ヘロデ王は救い主が生まれたことを聞いて恐れました。新しい王に自分の地位を奪われるかもしれないと思ったからです。それでヘロデ王は東からイエス様を拝みに来た学者たちに「その赤ちゃんを見つけたらぜひ教えてくれ。私も拝みに行くから」と言いました。でも学者たちは神様のお告げを受けて、ヘロデのところには帰りませんでした。怒ったヘロデはベツレヘムの町にいた赤ちゃんを全部殺してしまったのです。でもイエス様のお父さんになったヨセフさんも神様から「エジプトに逃げなさい」というお告げを受けて、遠いエジプトの国にイエス様とマリアさんを連れて逃げました。

どうして何もわからない赤ちゃんが殺されてしまったのでしょうか。赤ちゃんを殺されたお母さんたちはどれほど悲しかったことでしょうか。でもそれは昔だけのことではありません。今でもこの世の中には人を苦しめる悪の力、暗闇の力、死の力が働いています。苦しんでいる人、悲しんでいる人がたくさんいます。イエス様はエジプトからイスラエルに帰って、やがて十字架で殺されます。十字架につくためにイエス様は赤ちゃんの時には殺されなかったのです。でもイエス様は復活しました。それはイエス様を信じる私たちと一緒にいて、死に勝つ力と悪に負けない力をお与えくださるためでした。神様が私たちにくださったイエス様は、どんな暗闇の中でも消えることのない光なのです。

新しい一年。かなしいことがあっても、いやなことがあっても、イエス様は私たちの消えない光となっていてくださいます。だから今年もイエス様と一緒にあるいてゆきましょう。

分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

□97番 「こころをあわせ」

□改訂18番 「こころをあわせ」

話してみよう

- ・ヘロデ王はどんな人
- ・幼児イエスさまとマリヤとヨセフは
- ・エジプトへ逃れたこと
- ・エジプトからナザレに帰ったこと

やってみよう

- ・ヨセフは、神さまの言葉に従いましたね。どうしてだと思えますか。また、もし、神さまの言葉に従わなかったら、ヨセフ達はどうなっていたでしょう。
- ・あなたは、神さまにすべての信頼をおいて生きることができますか？それは、どんな人生になるでしょう？話してみましよう。

2017年1月8日 顕現主日

福音書 マタイ 2:1-12

第一の日課 イザヤ 60:1-6

第二の日課 エフェソ 3:1-12

彼らはひれ伏して幼子を拝み、宝の箱を開けて、黄金、乳香、没薬を贈り物として献げた。マタイ 2:11

ねらい

救い主の誕生が世界に告げられ、それにこたえて行動した人々がいたこと、彼らはどうしても救い主を礼拝したいと願い、そのために計画を立て、準備をし、困難な旅に出たことを伝え、私たちもこの学者たちのように、私たちの王であるイエス様を喜んで礼拝するように、子供たちを励ましたいと思えます。

説教作成のヒント

東の国の学者たちの労苦や喜びが、今の私たちの思いと重なるように話しかけてゆきたいと思えます。

豆知識

- ・「占星術の学者」とは天体の観測をし、暦の作成や農耕に必要な知識を提供していた人たちです。彼らは天体の動きを予測できたので、未来を占うことができると思われていました。聖書では「マジ」と書かれています。この言葉から手品や魔術のことを「マジック」というようになりました。ヘロデ王にも会うことができたので、身分の高い人たちであったと思えます。「三人の博士たち」と言い伝えられていますが、聖書には人数は書かれていません。危険な旅をするためには多くの同行者が必要であったと思えます。
- ・古代オリエントでは強大な国に世継ぎが生まれたとき、また新しい王が即位する時には属国や周辺の国の支配者たちは表敬訪問をしました。それをしないことは意図的な反逆、敵対行為でした。（詩篇第2篇には新しい王

の即位という変動の時に、周辺の王たちが反乱をもくろむ様子が記されており、今日の日課とも関連しますので参照してください)。東の学者たちが困難な旅をしたのは、ユダヤの王に拝謁することに、彼らの命運がかかっていたからです。

説教

イエス様がユダヤのベツレヘムという町でお生まれになったとき、ユダヤの空に不思議な星が現れました。その星を遠い東の国で見つけた人たちがいました。星の観察や研究をしていた学者たちです。その学者のひとりが「あっ、新しい星がユダヤの方に現れたぞ。」と言いました。もう一人の人が「ユダヤの空に新しい星が輝くとき、世界を治める王様が生まれる、という言い伝えがある。」と言いました。もう一人が「それは大変だ。私たちはその王様にどうしてもお会いして礼拝しなければならない」と言いました。ユダヤの国までは何週間もかかる大変な旅行になります。学者たちは旅の準備をしました。新しいユダヤの王様への贈り物も用意しました。こうして学者たちは長い旅に出かけたのです。

何日も旅をして、ようやくユダヤの国に来ましたが、新しい王様がユダヤのどこにお生まれになったのかわかりません。それでヘロデ王というその時のユダヤの王様に会って、「新しい王様はどこにお生まれになったのですか」と聞きました。ユダヤの学者たちが「救い主はベツレヘムでお生まれになると聖書に書かれています。」と教えてくれました。それで東の国から来た学者たちはベツレヘムに向かってゆきました。すると東の方で見たあの星がイエス様のいる家まで道案内をしてくれたのです。「ああ、神様が私たちの旅を守ってくださったのだ。」東の国の学者たちは喜びで胸がいっぱいになりました。そして家に入り、お母さんのマリアさんと一緒にいた赤ちゃんのイエス様を礼拝しました。そして持ってきた贈り物をささげました。イエス様に出会って礼拝できた学者たちはどんなにうれしかったことでしょう。イエス様は私たちをいつまでも守ってくださる神の御子、わたしたちの王様です。私たちもお友達といっしょにこれからもイエス様を礼拝しましょう。

分級への展開

さんびしよう

*讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

□21番 「とおくのひがしから」

□改訂78番 「とおくのひがしから」

やってみよう

☆1番大切なものをイエス様にお捧げしよう

<用意するもの>

色画用紙・白画用紙など

- ・3人の博士たちは、それぞれ1番大切なものをイエス様にプレゼントしました。みんなもイエス様へのプレゼントを考えてみましょう。(物でなく、心のこもったもの、自分たちにできることなど、考えてみましょう。)
- ・入手できれば、「クリスマスのおくりもの」コルネリス・ウィルクスハウス作 講談社を読んでみましょう。
- ・色画用紙をハート型に切ります。白画用紙は少し小さめにハート形を切ります。
- ・白画用紙にそれぞれのプレゼントをかきましょう。
- ・大きめの紙にみんなの書いたハートを貼ってもいいですね。

2017年1月15日 主の洗礼日

福音書 マタイ 3:13-17

第一の日課 イザヤ 42:1-7

第二の日課 使徒言行録 10:34-38

「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」と言う声が、天から聞こえた。マタイ 3:17

ねらい

__洗礼は私たちの決心である以上に、イエス・キリストとひとつにされることであり、大きな恵みであることを伝えたいと思います。洗礼を受けている人にはその恵みを覚えるとき、まだ受けていない人にとっては洗礼を願うように語りかけてゆきたいと思います。

説教作成のヒント

洗礼とはどのようなものかを具体的に示すために、教会堂に洗礼盤があれば、それを指し示してもよいし、キリストの洗礼の聖画などを示してもよいと思います。洗礼にどうして水を使うのかも一緒に考えて、それを説教の中心にしてもよいかもしれません。たとえば来ている服が汚れたとき、どうしたらきれいになるかを聞いてもよいと思います。きっと水なしできれいにするのは難しいでしょう。テキストに即して話すなら、イエス様も洗礼を受けて、私たちの仲間になり、一緒にいてくださる方となられたことを中心に話してみてもよいと思います。

豆知識

・イエスが洗礼者ヨハネから洗礼を受けたのは「すべて正しいことを行う」という目的もありました。イエス様自ら洗礼を受けることによって、洗礼が大切なものであることを教えられたのです。イエス様でさえ洗礼を受けたのですから、「洗礼は必要ない」と言える人はいないはずですよ。

・「これは私の愛する子」という神様の声は「このような者こそ」というニュアンスがあります。へりくだって罪びとと一緒に、罪びとのために生きようとするこの者こそ、私の愛する者だ、というのです。

説教

皆さんは教会での洗礼式を見たことがありますか。教会堂の中で頭から水をかけてもらう洗礼もありますし、川の中に入って受ける洗礼もあります。水は汚れを洗うものです。洗礼の水は神様の約束の言葉と一緒にあって、私たちの体の汚れではなく、罪の汚れを洗ってくれるのです。

イエス様もヨルダン川で洗礼者ヨハネという人から洗礼を受けました。洗礼者ヨハネはイエス様が罪のない方であることを知っていました。それでイエス様に、私のほうがあなたから洗礼を受けなければなりません。」と言いました。それでもイエス様はヨハネから洗礼を受けたのです。

なぜ罪のないイエス様が罪の赦しの洗礼を受けたのでしょうか。それはイエス様を信じて洗礼を受ける人と一緒にいてくださるためです。私たちが洗礼を受けるとき、イエス様も一緒にいてくださり、一緒に神様に「ごめんなさい」と言ってくれるのです。イエス様はこの後、私たちのために苦しい十字架への道を歩み始めます。それはこれからイエス様のお名前によって洗礼を受ける人たちの罪がゆるされるためでした。そしてイエス様は死の力に勝って復活されました。それはイエス様を信じて洗礼を受けた人たちをいつまでも守ってくださるためです。私たちが洗礼を受けたときから、イエス様とひとつにされるのです。「私には罪がないから洗礼を受けない」とは言わずに、弱い私たちと一緒に道を進み始めたイエス様を、父なる神様はたいそう喜ばれました。そして「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」と天から語られたのです。皆さんの中で洗礼を受けている人は、イエス様とひとつにされていることをいつも思い出してください。まだ洗礼を受けていない人も、イエス様に結ばれる洗礼を受ける日が来るようにお祈りしましょう。

分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

□1番 「みんなでたたえましょう」

□改訂8番 「みんなでたたえましょう」

やってみよう

☆音の鳴る楽器を作って、ラップで讚美♪

<用意するもの>

ガチャガチャのケース（ガチャガチャコーナーでもらってくるとよい）もしくは、ヤクルトのカップ、ペットボトルでも代用できます。あずき豆、ビーズなど

①ケースに豆を入れて、蓋をして、ビニールテープで止める。

②ケースを自由にデコって、オリジナルにしても良いですね。

③それでは、ラップのリズムで讚美しましょう。今日のみことば「これは、わたしの愛する子、わたしの心に適う者。イエィ！」です。

| ♪♪♪ | ♪♪♪ | ♪♪♪ | ♪♪♪ |

これは わたしの あいする こ

| ♪♪♪ | ♪♪♪ | ♪♪♪ | ♪イエィ |

わたしの ところに かなうもの イエィ

④リズムに慣れてきたら、テンポを上げて、1人ずつ順番に歌って、ノリノリで体を動かしてみましよう。

2017年 1月22日 顕現節3主日

福音書 マタイ 4:12-17

第一の日課 アモス 3:1-8

第二の日課 Iコリント 1:10-17

そのときから、イエスは、「悔い改めよ。天の国は近づいた」と言って、宣べ伝え始められた。マタイ 4:17

ねらい

__イエス・キリストが立派な人々のところではなく、靈的に貧しい場所から宣教を始めたことを覚え、弱く、罪がある私たちのところにイエス様が来てくださる喜びを伝えたいと思います。

説教作成のヒント

中心聖句である 17 節の「悔い改め」と「神の国は近づいた」という言葉の意味をどうしたら分かりやすく伝えることができるかを工夫したいと思います。悔い改め」とは罪を悔いることであるが、「向きを変える」という意味でもあります。神様に背中を向けて歩いていた人が向きを変えて神様に向かう様子を説教者の動作によって示してもよいと思います。また「神の国は近づいた」とは、人となられた神の子によって、神の国がすべての人に近づいた事であることも伝えたいと思います。私たちはその恵みの中で悔い改めることができるのですから。

豆知識

・《イエスは……退かれた》という言葉は「帰った」という意味です（マタイ 2:12）。イエスはヘロデの迫害を恐れて避難したのではなく、ヨハネという光を失って悲しんでいるガリラヤの人々のために、ヘロデの支配下にあるガリラヤ地方に戻ったのです。

・ガリラヤは昔アッシリアの支配によって混血し、異教の影響を受けました。それでユダヤの人から「異邦人のガリラヤ」と呼ばれて軽蔑されていたのです。ガリラヤの人々が靈的な闇の中にいたことは、悪霊追放の働きがガリラヤ伝道の期間に集中していることから分かります。

説教

イエス様はイスラエルの国の北にあるガリラヤ地方で神様のことを伝え始めました。そこは昔、外国に支配されて、本当の神様から離れてしまったときがありました。イスラエルのほかの人たちは神様から遠い人たちだと言ってガリラヤの人々を軽蔑していたのです。イエス様はこのように暗い場所から神様の教えを伝えはじめたのです。暗いところにいる人たちこそイエス様のくださる希望の光が必要だからです。ガリラヤには洗礼者ヨハネを牢屋に入れたヘロデという王がいました。次にイエス様もつかまってしまうかもしれません。それでもイエス様はガリラヤの人たちのために命をかけて神様の国を伝えたのです。

イエス様は「悔い改めよ。天の国は近づいた」と語られました。悔い改め、とは今まで神様に背中を向けていた人が神様の方に向きを変えることです。そして神の国というのは神様がいつも一緒にいてくださるうれしい世界のことです。神の子のイエス様が私たちのところに来てくださったので、神様の国は私たちのすぐそばに来たのです。あとは私たちが「神様ありがとう」と言って神様の国を受け取るだけなのです。どんなにお金があっても、お勉強ができて、神様の国から離れているなら、本当の希望や喜びや安心はありません。だからイエス様は私たちのためにも命をかけて神様の国に招いてくださったのです。一番暗いところに行かれたイエス様は、私たちがどんなに弱くても、どんなに悪い子であっても愛してくださり、「神様ごめんなさい」と言えばその時から神様とイエス様が一緒にいてくださるのです。今日、イエス様が下さった神様の国を感謝して受け取りましょう。

分級への展開

さんびしよう

*讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

□36番 「しゅイエスのみちを」

□改訂120番 「主イエスの道を」

やってみよう

☆みことばの書き初めをしよう

<用意するもの>

細筆

- ・墨汁
- ・半紙（半分に切って、細長にして使います。）
- ・黒画用紙
- ・新聞紙
- ・すずり
- ・ぞうきん

①みなさんは、書き初めをしましたか？新しい1年の目標は、何ですか？

②今日から、イエス様は神さまの事を伝えはじめられました。このはじまりの時、「悔い改めよ。天の国は近づいた。」という言葉ではじめられましたね。このイエス様の宣教のはじまりの言葉を書き初めしてみましょう。

③書けたら、良く乾かして黒画用紙に貼りましょう。

2017年1月29日 顕現節4主日

福音書 マタイ 4:18-25

第一の日課 イザヤ 43:10-13

第二の日課 I コリント 1:26-31

イエスは、「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう」と言われた。マタイ 4:19

ねらい

イエス・キリストが人々を神の国にすなごる働きのために弟子たちを召されたこと、そしてその召しが私たちにも与えられていることを覚えたいと思います。神が人を救い、生かす働きはいつも神の言葉とそれを伝える人々を通して進められてきました。また教会は神の愛を言葉だけでなく、教育や奉仕の働きを通して伝えてきました。神の国の働きの多様性を考え、各自にできることを考えてみたいと思います。

説教作成のヒント

漁師の働きと、宣教者、教会の宣教の間にある共通性について考えてみてもよいと思います。また兄弟たちが召されたことの意味について考えてもよいと思います。宣教の働きは単なるノウハウやテクニカルな面だけでは成立しないのです。私たちがイエス・キリストの教えに従ってゆくときに、つまりキリストの弟子であり続けるときに宣教者としても育ってゆくのです。

豆知識

・《舟と父親とを残して》という言葉はその前の《網を捨てて》という言葉と同じで「捨てる」の意味です。しかしこれは親を扶養する義務を放棄するというのではなく、新しい関係がそれまでの関係より優先される、という意味です。

・弟子たちの召命のいきさつは福音書によって異なっています。ヨハネ福音書ではヨハネやアンデレは洗礼者ヨハネの弟子であり、ヨハネの紹介によってキリストの弟子になったと記されています。弟子としての召命は一度だけのことではなく、いくつかの段階を経ているとも考えられます。

説教

イエス様はガリラヤの人々に神様の言葉を伝えました。でもイエス様お一人ではおおぜいの人に神様の言葉を伝えることはできません。それでイエス様と一緒に神様の言葉を伝えるための弟子をお呼びになったのです。最初にイエス様の弟子になった人たちはペトロとアンデレという兄弟でした。この二人は湖で魚をとる漁師でした。イエス様はこの二人に「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう」と言われました。これまでは魚をとる仕事をしていた兄弟たちは、これから魚ではなく、人間をとる漁師になる、というのです。網にかかって舟にあげられた魚は死んでしまいます。でもイエス様に救われた人間は神様の国でいつまでも生きようになるのです。そして神様が人間をとるために使う網は神様の言葉です。弟子たちは神様が下さった約束の言葉、神様の救いの言葉を人々に伝えるのです。魚が自分では舟に上がれないように、私たちも自分の力では神様のところに行けません。でも神様の救いの言葉が語られるとき、人々に心に神様を愛する心が生まれ、喜んで神様のところに行くようになるのです。

このイエス様の働きは世界中に広がりました。神様から離れて暗いところにいる人たちに神様の愛と救いを伝えるために、神様は小さな私たちも使ってくださいます。それは何よりも尊い働きです。イエス様は「わたしについてきなさい」と言われました。イエス様のお働きのためには、私たちがまずイエス様に従って、イエス様の教えを学ばなければなりません。また神様の言葉を伝えるためには私たちが兄弟として力を合わせなければなりません。私たちもイエス様のお手伝いができるように、一緒にイエス様に従ってゆきましょう。

分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

□67番 「ペテロは」

□改訂53番 「ペテロは」

やってみよう

☆お弟子さんカードを作って、神経衰弱に挑戦しよう

<用意するもの>

裏移りしない厚手の紙をトランプ程の大きさに切っておく（50枚くらい）

・マジックペンや色鉛筆など

①お弟子の名前を2枚ずつ書く。もしくは、1枚に名前もう1枚に顔でもOK!

②次にメンバーの名前も2枚ずつ書く。もしくは、1枚に名前もう1枚に顔でもOK!（教会の人の名前で作っても良いですね）

③残ったカードに、魚の名前を2枚ずつ書く。1枚に名前、もう1枚に絵でもOK!

④できたら、みんなで神経衰弱をしよう。ただし、メンバーのカードは3点、お弟子カードは2点、魚カードは1点で計算します。ルールは自由に変えてみてください。

※しっかりした紙で作ると、何度も使えます。